

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 52-048089

(43)Date of publication of application : 16.04.1977

---

(51)Int.Cl.

H01R 9/08

---

(21)Application number : 50-124125 (71)Applicant : KERU KK

(22)Date of filing : 15.10.1975 (72)Inventor : NAKANO KANJI  
SAYAMA RIKITARO  
TOJO SHOICHI

---

(54) CONNECTOR

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a connector which causes no longitudinal movement to a parallel cable in connection work, provides a secure electrical connection and requires no particular dimensional accuracy by forming a pair of pressure holders opposing to each other and a pointed core wire contact portion therebetween.

---

## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision  
of rejection]

[Kind of final disposal of application  
other than the examiner's decision of  
rejection or application converted  
registration]

[Date of final disposal for application]

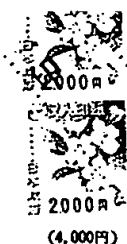
[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against  
examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]



## 特 許 願 (2) 続記号なし

2000年

昭和 50.10.15 日

特許庁長官 斎藤 英 雄 殿

## 1. 発明の名称

接 触 子

## 2. 発 明 者

東京都品川区西五反田7丁目7番4号

ケル株式会社内

中 野 観 二

## 3. 特許出願人 (ほか2名)

東京都品川区西五反田7丁目7番4号

ケル株式会社

代表者 小林 健

## 4. 代 理 人

住所 東京都港区芝西久保桜川町2番地 第17森ビル

〒105 電話 03 (502) 3181 (大代表)

氏名 (5847) 弁理士 鈴 江 武 彦

(ほか4名)

## 発明書の添付(内容に変更なし)

明 細 書

## 1. 発明の名称

接 触 子

## 2. 特許請求の範囲

対向して形成され平行ケーブルの絶縁被覆物を圧着する圧着部と、この圧着部相互間の結合部に少なくとも一個形成され平行ケーブルの絶縁被覆物を突きさしその芯線と電気的接続する芯線接触部とを具備した接触子。

## 3. 発明の詳細な説明

この発明は電子機器の配線に用いる可とう性の平行ケーブルを、その絶縁被覆をはく離することなく導体と電気的に接続するための接触子の改良に関する。

従来この種接触子として先端に形成した刃形部を対向させて角状柱を千鳥状に突設したものがあつたが、これは可とう性ケーブルをその刃形部に沿つて角状柱へ圧入し、各角状柱の角部で可とう性ケーブルをくいこませて接続するものである。このようなものでは可とう性ケーブル

## ⑨ 日本国特許庁

## 公開特許公報

⑪特開昭 52-48089

⑬公開日 昭52.(1977) 4.16

⑭特願昭 50-124125

⑮出願日 昭50.(1975) 10.15

審査請求 有 (全4頁)

庁内整理番号

64/2 52

⑫日本分類

60 D 121

⑬Int. Cl<sup>2</sup>

H01R 9/08

識別  
記号

が各角状柱の角部にくいこまないことが生じ、従つて電気的に接続されないことになり、信頼性に欠ける。また板体により先のとがつた2叉部を形成し、この2叉の間に可とう性ケーブルを加圧挟入させるようにした接触子があるが、この場合には接触子の板厚方向に可とう性ケーブルの導体が抜けやすかつ導体の移動によつて電気的には不安定現象となる。

この欠点を除去するものとして上述の接触子の先端に、テーパが穿設された上部モールドを設け込み、2叉部分を強制的にすぼめるように構成したものがある。この場合には接触子の取付けられた下部モールドと上部モールドはハメアイ方式であることからいずれも特別の寸法精度が要求され製作上困難である。

この発明は上述した従来の欠点を除去するためなされたもので、平行ケーブルの絶縁被覆物を圧着する圧着部と、この圧着部相互間に平行ケーブルの絶縁被覆物を突きさしその芯線と電気的に接触部とを形成することにより、電気的

接続が確実で、特別の寸法精度を要しない接触子を提供することを目的とする。

以下この発明の一実施例について第1図～第3図を参照して説明する。第1図はこの発明による接触子を用いたプリント板用コネクタの例を示しているが、カード用コネクタその他のコネクタにも適用できることはいうまでもない。第1図(a)は絶縁材料からなる基10である。第1図(b)は平行ケーブル11であり、これは可とう性を有し絶縁被覆物12と、この等間隔に配設された芯線13とから構成されている。第1図(c)はコネクタ本体14であり、これはインシュレータ15とこのインシュレータ15の接触子溝(図では明らかでない)に装着された接触子16とからなる。

この接触子16は第2図(a)に示すごとく、帯状導電板17の一端に対向する圧着部18, 19と、この他端側にはばU字形の接触部20と、前記圧着部18, 19相互の結合部に先鋭状の芯線接触部21の切込みとが形成されている。

絶縁被覆物12が圧着されるので芯線13はたとえより硬であつても確実に接続される。また圧着部18, 19はその先端が断面くさび状に形成されているので、平行ケーブル11の絶縁被覆物12を突き破くこともでき便利である。

この発明は以上述べた実施例に限定されず、第4図～第7図の各実施例のように変形して実施できる。第4図はこの発明の第2の実施例を示すもので、接触部23, 24を対向させて形成したものである。第5図はこの発明の第3の実施例を示すもので、第4図は芯線接触部21を圧着部18, 19に対して直角に配置してあるものがここでは芯線接触部21を圧着部18, 19と同じ方向に形成してある。第6図はこの発明の第4の実施例を示すもので、第5図の芯線接触部21, 25を2個並設したものである。第7図はこの発明の第5の実施例を示すもので、圧着部18, 19と同じ側に接触部23, 24が形成されたものである。これらはいずれも前述と同様な効果を実現することはいうまでもない。

特開昭52-48089(2)

このようなものの圧着部18, 19を図示芯線13の位置で同一方向に折り曲げ、かつ接触部20を図示の芯線位置で折り曲げ第2図(b)のように接触子16を構成する。なお22は図示しないプリント板の端子であつて、前記接触部20内に挿入される。

このように構成された接触子16に前述の平行ケーブル11を接続するには、はじめに芯線接触部21で、絶縁被覆物12の一部に突き差し芯線13に接触させ、圧着部18, 19により絶縁被覆物12を圧着する。この状態を第3図に示している。このように芯線接触部21で芯線13と接触させ圧着部18, 19により圧着するようにしたので、平行ケーブル11の芯線13と接触子16との電気的接続が確実となり信頼性が向上する。圧着部18, 19と芯線接触部21を具備しているだけなので、特別な寸法精度も必要とせず、プレス機で打抜き加工も可能で実用的である。さらに芯線接触部21の周りに配設されている圧着部18, 19で絶

その他この発明の要旨を要しない範囲で種々変形して実施できる。

以上述べたこの発明によれば対向する圧着部とこの相互間に先鋭状の芯線接触部を形成したので、平行ケーブルが長手方向に移動せず、電気的接続が確実で寸法精度に関係なく安価な接触子を提供できる。

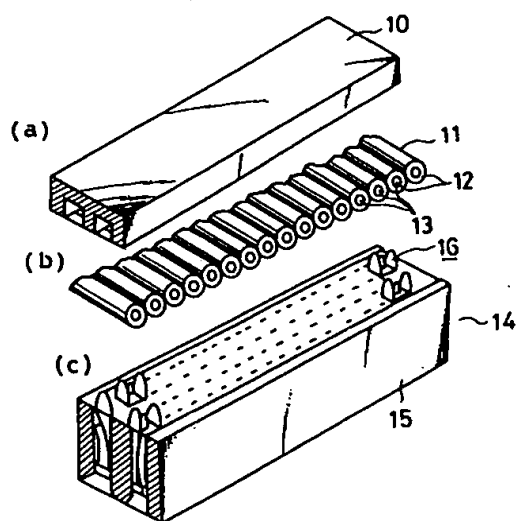
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図(a), (b), (c)はそれぞれこの発明による接触子を用いたプリント板用コネクタの構成部を示す斜視図、第2図(a), (b)はこの発明の第1の実施例の接触子の展開図および斜視図、第3図は同実施例の接触子に平行ケーブルを接続した状態を示す断面図、第4図～第7図はそれぞれこの発明の異なる実施例を示す斜視図である。

18, 19…圧着部、21…芯線接触部、11…絶縁被覆物12内に芯線13を有する平行ケーブル。

出願人代理人 弁理士 鈴 江 武 彦

図 1



特開 昭52-48089 (3)

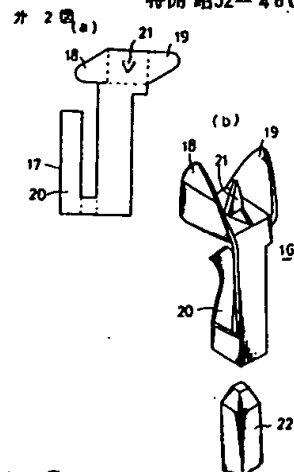


図 3

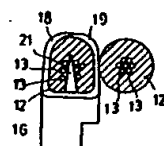


図 4

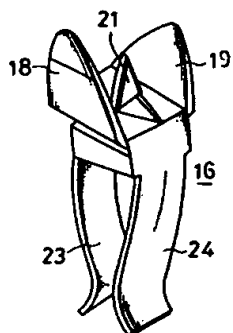


図 5

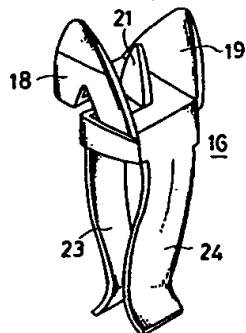


図 6

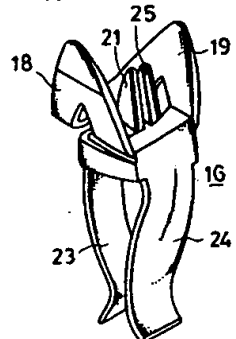
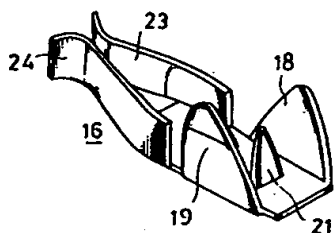


図 7



# 5. 添付書類の目録

- |           |    |
|-----------|----|
| (1) 委任状   | 1通 |
| (2) 明細書   | 1通 |
| (3) 図面    | 1通 |
| (4) 願書原本  | 1通 |
| (5) 審査請求書 | 1通 |

# 6. 前記以外の発明者、特許出願人または代理人

## (1) 発明者

〒100 東京都品川区西五反田7丁目7番4号

ケル株式会社内  
佐山力太郎

同所  
藤條正一

## (2) 代理人

住所 東京都港区芝西久保桜川町2番地 第17森ビル  
氏名 (5743) 弁理士 三木武雄  
住所 同所  
氏名 (6694) 弁理士 小宮幸一  
住所 同所  
氏名 (6881) 弁理士 坪井淳  
住所 同所  
氏名 (7043) 弁理士 河井将次

特開 昭52-48089(4)

# 手続補正書

昭和 50.11.-8

特許庁長官 斎藤英雄 殿

1. 事件の表示

昭和50年 特許願 第 124125 号

2. 発明の名称

接 触 子

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

ケル株式会社

4. 代理人

住所 東京都港区芝西久保桜川町2番地 第17森ビル  
〒105 電話 03(502)3181(大代表)

氏名 (5847) 弁護士 鈴 江 武 彦

5. 自発補正

6. 補正の対象

明細書全文

7. 補正の内容

明細書に於て(内容に変更なし)

